

東亞天文協會觀測部月報

黃道光課報告 (9月分)

課長 淺野英之助

先づ、最近觀測報告を寄せられた富原氏を御紹介申上げる。恰も本州と臺灣を結ぶ好位置にあり今後同氏の御努力を祈つて止まない。

沖繩縣首里市眞和志町二ノ二二 (東經 $127^{\circ} 7.5'$
北緯 $26^{\circ} 22.5'$) 富原守清氏

北海道の下保幹事には専ら統計的研究及び文獻の方面を御擔當願ふことにした。目下黃道光の寫眞撮影、光度計觀測、色の測定等に苦心してゐられる。寫眞はなかなかうまくゆかない由。

× × ×

9月分の報告 本月には協同觀測が廣瀨氏等の發意に依つて15日——20日迄3時30分より4時の間に參加人員10氏の豫定にて行はれたのであつたが、各地とも殆んど悪天候のため期間中の觀測數漸く4個、下保、寺町、宇野、松本の諸氏によつて得られたに過ぎない、其の他觀測概略次の如し。

1. 觀測者及び觀測數

觀測者	略符	觀測地	黃道光	對日照
下保 茂	Kh	北海道札幌市	2	
寺町忠行	Tr	愛知縣豐山村	2	
宇野良雄	Un	京都市	1	
本田 實	Hd	鳥取縣八東村		1
松本武雄	Mt	臺灣臺中市	1	

2. 觀測日時

* 西部標準時

略符	日	時	略符	日	時
Kh	8日	3時40分	Mt	15日	*4時00分
Hd	9日	22時35分	Tr	16日	3時52分
Tr	12日	4時00分	Un		4時07分
Kh	15日	3時30分			

3. 8日の下保氏、12日の寺町氏の觀測にて既に充分明るさは強くなつてゐることが知れる。下保氏は緯度の關係上稍々小形で且つ僅か淡く見られてゐる、同氏が南國で觀測せられたならばと思ふ。

4. 協 同 觀 測

第一日の15日には偶々北海道と台灣とにて觀測がなされ下保氏は寫眞撮影及び光度計觀測を行つてゐられる、明るさは $3.5 \times A$ である。

	日出前	Seeing	離角	幅	頂點の偏り	中心線の傾き	明るさ	色
下保氏	1h 43m	VC	$< 71^\circ$	(22°)	?	-1°	$3.5 \times A$	白
松本氏	I 40	C	銀河にて不明 (27°)		?	-10°	$> 2 \times A$	濁黄白
兩者の經緯度は		Kh	$\left\{ \begin{array}{l} L = 141^\circ 23' \\ \Phi = +43^\circ 3' \end{array} \right.$		Mt	$\left\{ \begin{array}{l} L = 120^\circ 42' \\ \Phi = +24^\circ 9' \end{array} \right.$		

松本氏は西部標準時で時間的に地理的に相違があるために、かなり違つたものとなつてゐるが、離角(太陽よりの距離)ほど同じ邊りの黄道光を見てゐるにも拘らず臺灣では明るさ前者に比し以外に淡い、今兩者の facta といつたものを考慮しても、少し差が大き過ぎる様に思はれる。16日には寺町氏と宇野氏の觀測があり、明るさは $2.0 \times A$ で兩者ともよく一致してゐる。

5. 對日照の觀測

9日本田氏の觀測であるが未だ甚だ淡く觀測は困難であつた由、明るさの中心點が二つありスケッチにされば對日照の南方から何か淡雲の様なものでも割り込んだ如き形となつてゐる。東西に稍巾廣き光帯を伴ふ。

十二月の狀況豫報

黃道光

西天——宵の觀測は月初め1日—9日頃迄及び下旬23日頃—31日迄可能である。銀河は漸次地平線下に没しゆき觀測好期となる。比較銀河は I.C.

東天——曉の觀測は5日—18日頃迄可能である。銀河未だ現れず依然觀測の好期である。木星あり。比較銀河は M.

對日照

上、中旬と可能であるが既に銀河に近く觀測困難であらう。月末は全く銀河中に入る。

比較銀河に就いて：A, C, I.C, M, O は次の意味である。

A=駁者座の五角形中を流れる銀河

M=-角獸座の中央を貫流する銀河

C=白鳥座 γ, β 星の間に擴がつてゐる銀河

O=蛇遣ひ座の北東岸を流る銀河

I.C=蜥蜴座及びセフェ座附近の銀河

變光星課報告 (21)

小山秋雄

10月中の觀測數

星名	觀測者	今津績	木邊成曆	加藤孝一	沓掛七二	木下謙	高井博典	星名	觀測者	今津績	木邊成曆	加藤孝一	沓掛七二	木下謙	高井博典
Z	Aqr	5	—	—	—	—	—	R	Leo	—	—	—	—	—	1
VZ	レ	—	13	—	—	—	—	R	LMi	—	2	—	—	—	—
η	Aql	—	17	—	—	—	4	R	Lep	—	3	—	—	—	—
UU	レ	—	13	—	—	—	—	β	Lyr	—	14	—	—	—	16
ε	Aur	11	—	—	—	—	—	AY	レ	—	2	—	—	—	—
RW	レ	—	11	—	—	—	—	RS	Oph	—	10	—	6	—	—
SS	レ	—	13	—	—	—	—	α	Ori	—	2	—	—	—	—
α	Cas	—	4	—	—	—	—	S	レ	—	5	—	—	—	—
ρ	レ	15	—	—	—	—	—	U	レ	3	4	—	—	—	1
S	レ	—	—	—	—	—	—	CN	レ	—	6	—	—	—	—
CMi	レ	—	2	—	—	—	—	R	Peg	7	6	—	5	6	11
ε	Cep	—	—	—	—	—	5	RU	レ	—	15	—	—	—	—
O	Cet	—	10	3	2	3	—	β	Per	—	—	10	—	—	21
T	レ	10	3	8	5	—	2	X	レ	10	—	—	—	—	—
U	レ	—	4	—	—	—	—	TZ	レ	—	14	—	—	—	—
R	Cor	10	2	9	1	10	—	UV	レ	—	17	—	—	—	—
X	Cyg	3	3	—	1	—	—	V	505 Sgr	—	—	13	—	26	—
U	レ	—	—	12	2	—	13	R	Scl	—	—	—	1	—	—
W	レ	14	—	—	—	9	11	R	Sct	9	—	9	2	—	—
RZ	レ	—	2	—	—	—	—	R	Tau	1	2	—	—	2	1
SS	レ	19	17	—	—	—	12	Y	レ	—	—	—	—	—	—
η	Gem	—	3	—	—	—	1	合計		114	219	64	25	56	99

1934年度觀測者及觀測數 (10) — (21)

	觀測者	觀測地	器械 (種)	觀測數
1	今津績	大阪	8.5反射, 双眼鏡, 肉眼	541
2	木邊成	吹田	25反射, 10反射, 3屈, 2.5屈, 肉眼	627
3	津部榮	田中	双眼鏡	36
4	加藤孝一	大阪市住吉	6屈折, 双眼鏡	240
5	西村繁二	京都市青木	13反射, 8反射, 5屈折, 双眼鏡	74
6	沓掛七二	長野市木村	10反射, 25屈折, 肉眼	90
7	金木田下	京愛媛大	12反射, 双眼鏡	147
8	勝茂雄	アラジ	10屈折, 双眼鏡, 肉眼	201
9	高井博典	京都市嵯峨	双眼鏡, 肉眼	114
10			11反射	198

次に参考の爲、天界第九卷の變光星課報告(中村, 小山, 山木, を除く)及花山ブレテン 283, 285號より、年別觀測數を導いた。概略の數であつて、その中、龜井氏のものは未公表のものも含まれてゐる。

	觀測者數	龜井	今津	木邊	加藤	木下	その他	觀測數合計
1928年	7	145	43	0	0	0	134	322
1929	6	740	243	0	0	0	73	1056
1930	2	397	12	0	0	0	0	409
1931	2	130	1	0	0	0	0	131
1934	10	0	541	627	240	201	659	2268

掩 蔽 課 —掩蔽の豫報に就いて—

從來掩蔽の豫報は屢々觀測者へ「はがき」で通知して來たが、今後、昭和十年の豫報より誌上に發表する事にした。従つて、豫め通知用の「はがき」を送付して居られる方へは更めて通知しないが、時々、單獨の事項や注意用件を通知するのに用ひますから御諒知願ひたい。

今形記載する豫報は花山で觀える星及びその時刻であるから 經度緯度の相違する地方では僅かに修正を要し、之が爲めには基本地點(花山)に於ける値の補正微分係数を發表する必要がある。

實際觀測する場合には潜入時刻が花山に於ける時刻よりどれ 丈け早いか、或は遅れたかを見れば出現も大體豫感される譯で、觀測上には左程の不便を感じない譯である。併し滿洲とか臺灣樺太等は大方模様も異なるし、花山で豫報されたものが掩蔽されない事もあり、又豫報されない星の掩蔽もある譯で、又掩蔽しても薄明で觀測されぬ事もある。要するに掩蔽觀測をするには一般同好者としては「描畫法」に依つて自らの觀測豫報を出す事が最も興味ある事で、現に花山でやつた豫報では一二分以内の確度が得られてゐる。この方法に就ては天界第五卷に上田博士が丁寧に述べられてゐるので 精讀を希望する。之に要する材料は英曆か米曆か一つあれば宜しいが、大方の御希望なれば亞細亞に關する部分丈け印刷にして御分けしても宜しい。尙御質疑の點は掩蔽課宛に遠慮なく申し込んで下さい。(公文・高城)

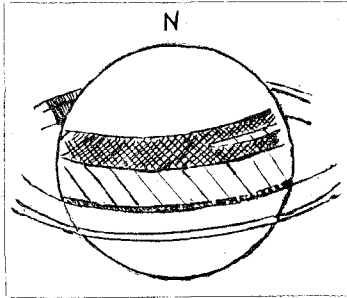
(花山で見える) 掩 蔽 豫 報 (昭和九年一月)

星 名 Star	光級 Mag.	潜 入 時 刻 Immersion		位置角 P.A.	出 現 時 刻 Emersion		位置角 P.A.	月齡 Moon's Age	始 終 間 隔 Interval	可 視 緯 度 Limiting Parallels	
		日 時 分	時 分		日 時 分	時 分				N S	° ' "
153 B.Lib	6.3	2 4	35.4	127°	2 5	29.1	353°	26.1	0 53.7	+48°	-20°
26 Ari	6.1	13 16	56.0	145	13 18	8.1	214	8.1	1 12.1	+76	-6
γ Tau	5.4	15 18	16.0	148	15 19	32.0	299	10.2	1 16.0	+61	-6
O ² Cnc	5.6	21 2	56.4	110	21 4	1.1	213	15.6	1 4.7	+90	+2
43 Leo	6.3	22 23	31.5	55	23 0	23.6	291	17.4	0 52.1	+73	-16
γ Vir	5.4	25 23	58.5	201	26 1	2.1	322	20.4	1 3.6	+67	-19
48 B Sco	5.1	30 2	38.9	163	30 3	31.4	333	24.5	0 52.5	+54	-12
65 B Sco	5.6	30 4	59.1	340	30 6	13.3	286	24.7	1 14.2	+64	-8

遊星面課報告

幹事

十月は割合天気のよい方であつた。但し星は淋しく土星が居るのみである。土星、唯れもが本年の帯が昨年よりは目立つて見て居る。この頃は案外赤道



地方も白くない。前田、山根兩氏が報告を貰つた。

十月二十日の日夜は珍らしく好氣流で會員にも美觀を見た方が多いと思ふ。圖の如く、暗帯が不明瞭乍らヤ二本に分れて居る様に見えた。

又十九日は反対側の一部が濃い位より目

立つた事はなかつた。

火星の觀測準備として用紙申込次第御送りする(郵券同封)幹事宛

彗星課報告

ラインムト彗星の發見

來る1935年度に歸來する夥しい週期彗星のうち、ラインムト彗星(1928I)は去る十一月五日米國リク天文臺 Jeffers 氏によつて再發見された。正に1934bである。詳細は

十一月5.4061日 $\alpha = 5^{\text{h}} 11^{\text{m}} 46.3^{\text{s}}$ $\delta = +11^{\circ} 47' 9''$ (分點1934.0) 光度16
急報第103號に報じた推算表と殆んど合致し、近日點通過は來年5月2日の筈である。英國クロンメリン老の門下の J. T. Foxell 氏等は B.A.A. 年鑑に下の如き軌道要素と來年上半期の推算表を發表してゐる。

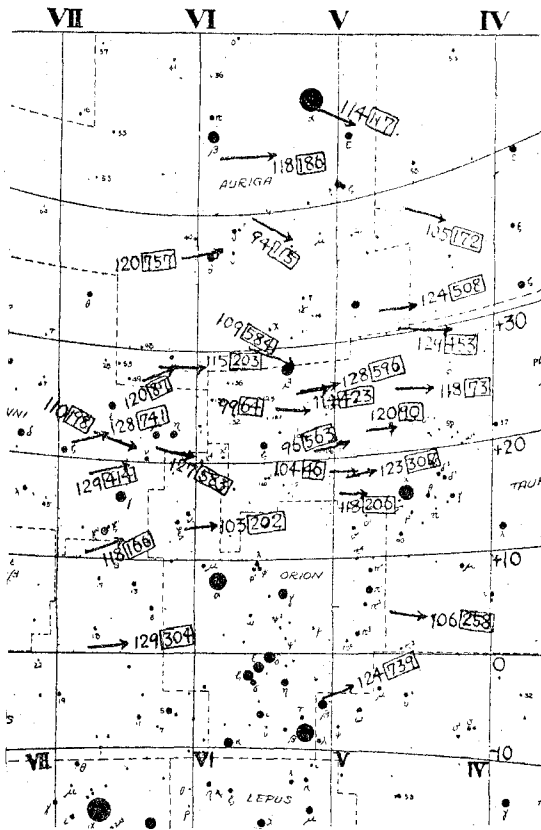
近日點引數 $\omega = 8^{\circ} 50' 09''$	}	(1935.0)	離心率 $c = 0.50366$
昇交點 $\Omega = 124^{\circ} 57' 57''$			半長經 $a = 3.77020$
傾斜角 $i = 8^{\circ} 04' 02''$			近日點距離 $q = 1.87131$

急告

來る十二月十八日プレヤデスが掩蔽する。奮つて觀測を薦む。

寫眞課

(前月號の右圖が非常に小さく印刷されたので、大變見難く
なつた。此月よりは、從前通り、大きく印刷して貰つた。)



一九三四年十二月中旬の小遊星圖

愈々銀河にかゝつて検出が困難になる。其の代り、案内星が見付け易いので観測は樂になる。現今、小遊星を主に撮影して居られる會員は神戸の改發氏と静岡の清水氏とである。測定は花山で行ひ R.I に發表して居る。8 cm 程度又は其れ以上のカメラを持たれる方は小遊星の撮影をお勧めする。

Osten 教授は (583) と云ふ小遊星の観測を特に切望して居る。

〔記〕最近到着の R.I 1038 號によれば、行方不明中の小遊星 (392) *Whilhelmina* が再發見された由。(392) *Whilhelmina* は、1894年11月4日 Max Wolf によつて發見され、同22日及び12月3日の観測から Berberich が軌道計算しただけで、其後全く行方不明のものであつた。所が最近、G. Raynal は、木星の略式一般攝動計算法によつて、此の小遊星は 1933SW に等しき事を證明し、又 1933 UZ にも等しき事を見出した。來年より、普通の小遊星と同じく其豫報位置が與へられる豫定である。(柴田)

太陽課 黑點相對數報告 (1934年十月)

觀測者(觀測地)	松本(臺灣臺中高女)	日野(愛媛縣新居郡)	改發(神戸市須磨區)	荏部(神戸市灘區)	伊達(兵庫縣雲雀丘)	井澤(大阪市岡中學)	北村(大阪市外布施)	前田(京都市下京區)	龜井(花山天文臺)	木邊(滋賀縣中里村)	三澤(長野縣上諏訪)	沓掛(長野縣青木村)	清水(静岡縣島田町)	森久保(橫濱市中區)	淺居(橫濱保土谷區)	水谷(東京市本郷區)	稻垣(東京市芝區)	山根(東京市澁谷區)	千葉(岩手縣水澤町)	下保(札幌市豐平町)
鏡徑耗	50	98	150	75	80	110	50	70	55	73	73	102	100	35	27	38	75	44	50	58
倍率	40	69	68	77	70	92	62	40	64	60	85	75	73	50	50	50	30	43	50	44
1	16	曇	16	26	26	0	曇	11	0	雨	23	曇	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	曇	14	曇	曇	曇	曇	0	欠	雨	11	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
3	0	曇	雨	曇	曇	曇	曇	0	雨	雨	雨	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
4	0	曇	雨	曇	曇	曇	曇	0	雨	雨	雨	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
5	0	曇	雨	曇	曇	曇	曇	0	雨	雨	雨	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
6	0	曇	雨	曇	曇	曇	曇	0	雨	雨	雨	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
7	0	曇	雨	曇	曇	曇	曇	0	雨	雨	雨	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
8	0	曇	雨	曇	曇	曇	曇	0	雨	雨	雨	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
9	0	曇	雨	曇	曇	曇	曇	0	雨	雨	雨	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
10	0	曇	雨	曇	曇	曇	曇	0	雨	雨	雨	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
11	0	曇	雨	曇	曇	曇	曇	0	雨	雨	雨	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
12	11	11	11	11	11	11	11	11	欠	曇	11	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
13	11	11	12	11	11	11	11	11	欠	曇	11	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
14	11	11	12	11	11	11	11	11	欠	曇	11	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
15	11	11	12	11	11	11	11	11	欠	曇	11	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
16	11	11	曇	曇	曇	曇	曇	曇	欠	曇	11	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
17	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	欠	曇	11	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
18	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	欠	曇	11	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
19	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	欠	曇	11	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
20	0	0	0	0	0	0	0	0	欠	曇	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21	旅	0	0	0	0	0	0	0	欠	曇	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22	0	0	0	0	0	0	0	0	欠	曇	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
23	0	0	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	12	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
24	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	12	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
25	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	12	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
26	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	11	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
27	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	11	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
28	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	11	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
29	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	11	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
30	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	11	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
31	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	12	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
平均	6	6	6	10	8	7	6	6	5	7	8	7	7	4	6		6	8	6	6
日數	26	18	18	25	21	20	13	25	18	18	21	17	21	14	14		14	10	19	29

天氣はまだかなり悪い。しかし、天氣が悪いことを、むしろ觀測者側の精神的緊張によつて克服して貰ひたい。○中國の瀨戸内海沿岸に惠まれた天氣を利用して一二の新觀測者が出てほしい。